

「わたしにはこれという  
商売はございません。た  
だ人の出来ないことが、  
たった一つ出来るだけで  
ございます。」「では、  
その人に出来ないことと  
いうのは、どんなこと  
です」「なに、たいしたこ  
とではございません。わ  
たしはブクブクという名  
前でいつでも勝手なとき  
に、ひとりでにからだが  
ゴムのふくろのようにブ

クブクふれます。まず一連隊位の兵たいなら、すっかりはらの中へ入るくらいにふくれます。」太った男はこう言って、ニタニタ笑いながら、いきなりプープーふくれ出して、またたく間に往来一ぱいにつかえるくらいの大きな大きな大男になって見せました。王子はびっくりして、「ほほう、これはちょうほうな男だ

どうです、きょうからわたくしのおともになってくれませんか。わたくしもちょうど、お前さんと同じように、しあわせをさがして歩いているのだから。」と、聞いてみました。するとブクブクは喜んで、「どうぞおともにつけて下さいまし。何よりのしあわせでございます。」と言って、すぐに家来になりました。そ